

事務事業マネジメントシート

事務事業名		紫外線照射装置整備事業					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	実計計画事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	国県補助事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託
	水道	XX	XX	XX	紫外線照射装置整備事業					事業分類	施設等整備事業
事業計画		期間限定複数年度			事業期間		平成20年度 ～ 令和10年度			市長公約	該当なし
										総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等		水道法									

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）	令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
佐野市の水道は、地下水を水源としているが、一部の水源において、クリプトスポリジウム原虫が含まれる可能性を示す指標菌（大腸菌や嫌気性芽胞菌）が検出されており、より安全な給水を確保していくため、浄水場に紫外線照射装置や膜ろ過装置を設置する。	・閑馬浄水場紫外線照射装置設置工事（R4.6～R5.2）						
平成20年度から令和10年度にかけて、菊川浄水場・大橋浄水場・多田浄水場・田沼浄水場・閑馬浄水場・野上中浄水場・野上北浄水場・常盤第2浄水場・飛駒浄水場・氷室浄水場・石塚浄水場・常盤第1浄水場に順次設置する。	活動指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）
	紫外線照射装置等設置数累計	箇所	4	5	6	7	8

②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）

クリプトスポリジウム原虫が含まれる可能性を示す指標菌（大腸菌や嫌気性芽胞菌）が検出された浄水場数。	対象指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）
	指標菌が検出された浄水場数	箇所	12	12	12	12	12

③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）

指標菌が検出された原水を使用する浄水場に、紫外線照射装置や膜ろ過装置を設置することによりクリプトスポリジウム原虫を不活化させたり、除去を行う。	成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	紫外線照射装置等を行う施設の計画認可水量	m3	目標	37,850	38,951	39,041	39,186	39,841
			実績	37,850	38,951			
	UV照射等水量/計画UV照射等水量（認可値）	%	目標	82.2	84.6	84.8	85.1	86.5
			実績	82.2	84.6			

④結果（どのような結果に結びつきますか？）

安全で安心な水道水が安定的に供給される。	上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	紫外線照射装置整備率（整備済/必要箇所数）	%	目標	33.3	41.7	50	58.3	66.7
			実績	33.3	41.7			
			目標					
			実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

投入量	事業費	財源内訳	単位	R 3 年度（実績）		R 4 年度（実績）		R 5 年度（目標）		R 6 年度（目標）		R 7 年度（目標）	
		国庫支出金	千円	0		36,500		0		0		0	
		県支出金	千円	59,500		0		0		0		0	
		地方債	千円	120,300		51,400		0		0		0	
		その他	千円	89,200		54,700		0		0		0	
		一般財源	千円	27,054		△142,600		0		0		0	
		事業費計(A)	千円	296,054		0		0		0		0	
		事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
人件費	職員従事工数	人工	0		1		0		0		0		
	人件費計(B)	千円	0		7,287		0		0		0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	296,054		7,287		0		0		0		

B表（事後評価シート）

事務事業名	紫外線照射装置整備事業	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成19年3月30日に、厚生労働省が「水道におけるクリプトスポリジウム等の対策方針」を開示、原水にこの原虫が含まれる可能性を示す指標菌（大腸菌や嫌気性芽苞菌）が検出された施設には紫外線照射装置等の整備が認められ、平成20年度より事業を開始している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	変化なし
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	変化なし

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	事業費の削減余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
閑馬浄水場に紫外線照射装置を設置したことにより、水道水を安心・安全に市民に給水できるようになった。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
令和4年度の照射線設置工事が計画どおり進み、年度末には供用開始が出来た。		残りの浄水場においても、順次、計画的に紫外線照射装置等を設置していく。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）	
					* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○			
	小					
		大	中	小		
		成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		小中浄水場施設整備事業						本年度担当課		水道課					
								前年度担当課		水道課					
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						事業 区分	新規・継続		継続事業			
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり							実施計画・一般		実計計画事業			
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理							市単独・国県補助		市単独事業			
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給							任意・義務		任意的事業			
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名						実施方法		一部委託		
	水道	XX	XX	XX	小中浄水場施設整備事業						事業分類		施設等整備事業		
事業計画		期間限定複数年度				事業期間		平成31年度 ～ 令和7年度				市長公約		該当なし	
根拠法令・条例等		水道法										総合戦略		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

目的	①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
	事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
	市の沢浄水場及び石塚浄水場については、全体的に老朽化が進んでおり、耐震施設でないことにより、大規模な更新時期を迎えていた。 別々での整備が検討される中、市の沢浄水場については、水源地として使用している小中水源地に隣接してある、小中教習所跡地に整備した方が、用地・建設費・維持管理費の面より有利であるとの判断により、市の沢浄水場と同様の施設を小中浄水場へ移転して整備を行っていく。				・ 令和3年度繰越 小中浄水場内配水池設置工事 900㎡ 1基 （R3.7～R4.5） ・ 令和4年度 小中浄水場管理棟建築工事 1棟 （R4.6～R5.3） 小中浄水場管理棟建築工事監理業務委託 （R4.6～R5.3）							
					活動指標		単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
					小中浄水場整備事業進捗率	%	8.9	32.5	57.8	80.8	100	
	②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
	老朽化した市の沢浄水場				対象指標		単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
					進捗率に対する配水量		m3	146	534	949	1,327	1,642
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
老朽化した浄水場を耐震性・水密性が有る、必要容量を確保できる施設にする。				成果指標		単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				進捗率に対する配水量		m3		目標	154	580	949	1,327
				進捗率×1,642m3/日			実績	146	534			
							目標					
			実績									
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
安全で安心な水道水が安定的に供給される。				上位成果指標		単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				紫外線照射装置整備率 （整備済/必要箇所数）		%		目標	33.3	41.7	50	58.3
							実績	33.3	41.7			
							目標					
			実績									

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	事業費	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
		国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
		県支出金	千円	0		0		0		0		0	
		地方債	千円	76,400		250,200		0		0		0	
		その他	千円	0		0		0		0		0	
		一般財源	千円	8,520		△250,200		0		0		0	
		事業費計(A)	千円	84,920		0		0		0		0	
		事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0		2		0		0		0	
		人件費計(B)	千円	0		14,574		0		0		0	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	84,920		14,574		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	小中浄水場施設整備事業	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	市の沢浄水場の老朽化・耐震性などについて検討を行った結果、現在の場所で施設更新を行うよりも、市有地の小中教習所跡地を借用し新たな浄水場を建設することが、建設費や今後の維持管理費の面からも得策であるとの結論が出たことによる。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	水道施設など社会インフラについては、より高い安全性が求められて来っており、施設更新に合わせて水道施設全体を耐震性の有るものに変えていくため、「水道施設の技術的基準を定める省令」の一部改正が行われ、既存施設について計画的に耐震化に取り組むよう国から指導が有った。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	変化なし

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

２．事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	事業費の削減余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
新浄水場の規模・特性等を考慮した最適な整備手法を検討して事業を進めることにより、事業費削減・工期短縮を図り成果を向上させていく。			成果向上余地がある程度ある
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
令和元年度から令和7年度の期間において、実施計画を立て施工しているが、計画通り進んでいる。		進捗状況や施工条件によって、本浄水場の整備に最適な手法や順序などをその都度検討し、計画どおり整備を進める。	

３．評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）	
					* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○			
	小					
		大	中	小		
		成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		石塚浄水場施設整備事業					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託
	水道	XX	XX	XX	石塚浄水場施設整備事業					事業分類	施設等整備事業
事業計画		期間限定複数年度			事業期間		令和2年度 ～ 令和12年度		市長公約	該当なし	
									総合戦略	該当なし	
根拠法令・条例等		水道法									

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）	令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
石塚浄水場については、全体的に老朽化が進んでおり、耐震施設でないことにより、大規模な更新時期を迎えていた。また、雨水対策や紫外線照射装置の設置などもあり、現在の敷地では狭く、施設更新を行う事はかなり難しい状態となっていたが、改めて検討をした結果、コンパクト化した機器の設置や仮設機器類を運用することにより、現敷地内でも更新ができると判明した。その為、令和4年度に基本設計業務委託を発注し、細かい内容について、検討していく方針となった。	・更新基本設計業務委託設計業務委託（R4. 8～R5. 3） ・地質調査業務委託（R4. 8～R4. 11）						
	活動指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
	石塚浄水場整備事業進捗率	%	0.1	1.2	4.5	21.8	32.4

②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）

老朽化した石塚浄水場	対象指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
	進捗率に対する配水量	m3	5	56	208	1,008	1,499

③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）

老朽化した浄水場を、耐震性が有り必要容量を確保できる施設にする。	成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	進捗率に対する配水量	m3	目標	5	56	208	1,008	1,499
	進捗率×4,626m3/日		実績	5	56			
			目標					
		実績						

④結果（どのような結果に結びつきますか？）

安全で安心な水道水が安定的に供給される。	上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	紫外線照査装置整備率 （整備済/必要箇所数）	%	目標	33.3	41.7	50	58.3	66.7
			実績	33.3	41.7			
			目標					
		実績						

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	事業費	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
		国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
		県支出金	千円	0		0		0		0		0	
		地方債	千円	0		0		0		0		0	
		その他	千円	0		0		0		0		0	
		一般財源	千円	484		0		0		0		0	
		事業費計(A)	千円	484		0		0		0		0	
	人件費	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	トータルコスト	職員従事工数	人工	0		1		0		0		0	
		人件費計(B)	千円	0		7,287		0		0		0	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	484		7,287		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	石塚浄水場施設整備事業	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	石塚浄水場は、全体的に老朽化が進んでおり、耐震施設でないこともあり、大規模な更新時期を迎えていた。市の沢浄水場との統合を行うことも検討されたが、各浄水場で個々に整備した方が得策であるとの検討結果がだされ、石塚浄水場の整備を行うこととなった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	水道施設など社会インフラについては、より高い安全性が求められて来っており、施設更新に合わせて水道施設全体をしっかりと耐震性の有るものに変えていくため、「水道施設の技術的基準を定める省令」の一部改正が行われ、既存施設について計画的に耐震化に取り組むよう国から指導があった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	変化なし

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

２．事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	事業費の削減余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
新浄水場の規模・特性等を考慮した最適な整備手法を検討して事業を進めることにより、事業費削減・工期短縮を図り成果向上をさせていく。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
令和2年度から令和12年度の期間事業で計画を立て、実施しているが、年度ごとの計画通り進められている。		基本設計を行い、次年度詳細設計を行う予定だが、現地に会った最適な設計を行い、工期・工事費縮減を図る。	

３．評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性		（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）			
					＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中		○					
	小							
		大	中	小				
		成果向上余地						

事務事業マネジメントシート

事務事業名		管網整備事業					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託
	水道	XX	XX	XX	管網整備事業					事業分類	施設等整備事業
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成14年度 ～		市長公約	該当なし	
									総合戦略	該当なし	
根拠法令・条例等		水道法									

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）							
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）			
水道の管網状況及び需要を判断し、単年ごとに、配水管を布設する。				管網整備工事：3本（L=884.2m） R3繰越工事：1本（L=310.3m）（R3.10～R4.4） R4工事：2本（L=573.9m）（R4.8～R4.12）			
				活動指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）
				年度施工延長	m	1,051	884
						150	150
						150	150
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）							
配水管が、部分的にしか布設されていない箇所、道路新設等で、必要になった箇所。				対象指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）
				整備必要とされる延長	m	4,398	3,514
						3,364	3,214
						3,064	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）							
配水管を整備することにより、管網を一体化し、水道水の安定供給を図る。				成果指標	単位	R3年度	R4年度
				管網整備済延長	m	目標 32,214	33,098
						実績 32,214	33,098
						目標	
						実績	
④結果（どのような結果に結びつきますか？）							
漏水もなく、安定した水道水の供給が可能になる。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度
				老朽管更新延長（単年度）	km	目標 2	3.2
						実績 2.4	2.1
						目標	
						実績	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	67,400		49,700		0		0		0	
	その他	千円	700		350		0		0		0	
	一般財源	千円	16,010		△50,050		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	84,110		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人件費	0		2		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		14,574		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	84,110		14,574		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	管網整備事業	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	水道事業開始から、水道普及を目的として適正な水量、水圧の確保のために実施している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	変化なし
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	水道未普及の地区から、新しく配水管を整備して欲しい（管網整備）との要望がある。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
今年度予定した2箇所の水道管（配水管）の整備が出来た。		給水区域内で水道水の使用に伴う水圧不足の解消や、水需要者が直近の道路（公道）から分水し、安定的に水道水が供給されるように計画を立て、順次、配水管の整備をしていく。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）	
					* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中			○		
	小					
		大	中	小		
		成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		電気・機械設備更新事業					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託
	水道	XX	XX	XX	電気・機械設備更新事業					事業分類	施設維持管理事業
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成17年度 ～		市長公約	該当なし	
									総合戦略	該当なし	
根拠法令・条例等											

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

目的	事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）		令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
	・老朽化した電気、機械、計装設備を各々の耐用年数を参考にして作成した更新計画を基に、更新を実施。 ・実施する前年に当該年度分を調査、確認。 ・水道局内にて更新設備について協議決定。 ・更新実施する設備の設計書作成。 ・入札により施工業者決定。 ・工事の施工管理。 ・工事完了検査。更新設備の移動。		実施設計業務委託:1件 (R4.12～R5.3) 令和3年度繰越工事:1工事 （令和4年度決算額29,700千円） 令和4年度電機・機械設備更新工事:11工事（R4.8～R5.3） うち3工事繰越（繰越額30,000千円）						
			活動指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
			本事業で更新した設備台数	台	32	44	55	35	35
	②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）								
	電気、機械、計装設備		対象指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
			更新時期にある設備台数	台	40	60	55	35	35
			機械、電気、計装設備台数	台	828	828	828	828	828
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）									
設備老朽化による故障や事故を未然に防ぐ。		成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		更新した設備台数／更新時期にある設備台数	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	80	73.3			
		更新時期にある設備台数／設備台数総数	%	目標	5	7	7	4	4
				実績	5	7			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）									
安全で安心な水道水が安定的に供給される。		上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		紫外線照射装置整備率（整備済/必要箇所数）	%	目標	33.3	41.7	50	58.3	66.7
				実績	33.3	41.7			
				目標					
				実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	151,899		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	151,899		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人工	0		1		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		7,287		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	151,899		7,287		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	電気・機械設備更新事業	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年度市町村合併以来、継続して正常な機器の運転を確保するため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	地方公営企業法施行規則の耐用年数の変更は特になし。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	変化なし

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
本事業は、適正な維持管理を行ったうえ、法定耐用年数に基づき計画的に更新時期にきた設備の更新工事を適正に行っている。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
今年度については、計画通り発注できたが、半導体不測の影響で3工事繰越となった。		延命措置を行いながら、安心・安全・安定した水道水の供給を行うため、計画的に順次、電気・機械設備機器の更新工事を行っていく。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）		
		＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。					
	中		○				
		小					
			大	中			小
		成果向上余地					

事務事業マネジメントシート

事務事業名		老朽管更新事業					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	実計計画事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託
	水道	XX	XX	XX	老朽管更新事業					事業分類	施設等整備事業
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成19年度 ～		市長公約	該当なし	
									総合戦略	該当なし	
根拠法令・条例等		水道法									

B表（事後評価シート）

事務事業名	老朽管更新事業	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成19年度から、漏水の発生が多いことにより、事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	厚生労働省より耐震性に問題がある石綿管の更新事業が全国的に進み、これからは、老朽化した塩ビ管等の老朽化の進行度を踏まえ、遅滞なく耐震性の有る管への転換を進めるよう通知があった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	減災・防災の観点から、対処をどうしているかという質問がある。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため、取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
本年度予定した整備区域、延長を布設替え工事ができた。		老朽化した配水管等を耐震化や漏水の防止するため、また、年を越すごとに老朽管も増加していくので、計画的に管の布設替工事を進める。それには、布設する管種の選定や工法の検討を行い、工期短縮・工事費削減も併せて検討していく。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性		（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）			
		＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。						
	中			○				
	小							
		大	中	小				
		成果向上余地						

事務事業マネジメントシート

事務事業名		水質検査事務					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	義務的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託
	水道	XX	XX	XX	水質検査事務					事業分類	検査・調査事務
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成17年度 ～		市長公約	該当なし	
総合戦略		該当なし									
根拠法令・条例等		水道法									

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

目的	①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
	事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）			令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
	・水道法に基づき水質検査計画を策定し、同法第20条に基づく検査を適時実施する。実施方法は指定検査機関に委託して行う。 ・採水場所：水道局所管の浄水22箇所（令和5年度からは20箇所）、放射性物質検査22箇所（令和3年度途中から20箇所）、及び原水55箇所（令和4年度からは52箇所、令和5年度からは51箇所） ・検査項目：水質基準項目（51項目・9項目）、水質管理目標設定項目（4項目）、放射性物質検査（2項目）、個人宅給水栓からの水質検査委託27人（令和5年度からは25人）			水質基準項目（51項目：5月、8月、11月、2月） 水質基準項目（9項目：4月、6月、7月、9月、10月、12月、1月、3月） 水質管理目標設定項目（4項目：7月） 放射性物質検査（2項目6月、9月、12月、3月） 水質検査を実施した検体数（浄水）：366検体 個人宅給水栓からの水質検査（3項目：毎日）							
				活動指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）	
				水質検査を実施した検体数（	検体	372	366	340	340	340	
目的	②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
	・給水区域内水道使用者 ・原水（井戸の水）及び浄水（蛇口からの水）			対象指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）	
				水質検査を実施すべき全体件	検体	372	366	340	340	340	
				給水人口	人	114,074	113,072	113,000	113,000	113,000	
目的	③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
	供給する水道水について、各水質基準に適合しているかを判定し、安全な飲料水であるように適切に管理する。			成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				水質基準に適合した割合	%	目標 実績			100	100	100
						目標	100	100			
						実績					
目的	④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
	安全で安心な水道水を安定的に供給する。			上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				紫外線照射装置整備率 （整備済箇所数/必要箇所）	%	目標 実績			50	58.3	66.7
						目標	33.3	41.7			
						実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	5,512		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	5,512		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人件費	2		2		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	14,654		14,574		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	20,166		14,574		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	水質検査事務	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年度市町合併以来、継続して水道水の安定供給を確保するため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成23年3月11日の東日本大震災により、水道水中の放射性物質検査が必要となった。水道水の安全の観点からすると、水質基準項目が見直されて、より管理が厳しくなると予想される。また、平成25年度より、水道施設の運転管理業務委託が開始し、本事業で実施していた検査の一部が、受託者側で実施することになった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	

２．事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

３．評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性		（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）			
					＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中		○					
	小							
		大	中	小				
		成果向上余地						

事務事業マネジメントシート

事務事業名		給水装置工事検査事務					本年度担当課		水道課			
							前年度担当課		水道課			
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業		
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業		
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	直営	
	水道	XX	XX	XX	給水装置工事検査事務					事業分類	許認可・審査事務	
事業計画		単年度繰り返し			事業期間		平成17年度 ～		市長公約	該当なし		
根拠法令・条例等		水道法									総合戦略	該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

目的	事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）		令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
	・分水工事の立会い ・指定給水装置工事業業者を通じて申し込まれた給水装置工事の、新設及び改造工事の竣工検査 ・工事が施工された新設、改造等の給水装置工事設計書等の保存管理		分水工事の立会件数：325件 給水装置工事竣工検査件数：1,081件 給水装置工事設計書件数(単年度)：1,096件						
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			分水工事の立会件数	件	373	325	350	350	350
			給水装置工事竣工検査件数	件	1,093	1,081	1,100	1,100	1,100
			給水装置工事設計書件数(累	件	78,265	79,361	80,500	81,600	82,700
	②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）								
	給水区域における水道使用者		対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			給水人口	人	114,074	113,072	113,000	113,000	113,000
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）									
関係法令等の基準に適合した給水装置工事を施工させる		成果指標	単位	／	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		適切な施工が確認された件数/申込まれた給	%		目標			100	100
				実績	100	100			
				目標					
				実績					
④結果（どのような結果に結びつけますか？）									
適切に維持管理されている。		上位成果指標	単位	／	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		老朽管更新延長(単年度)	km		目標			2.3	2.7
				実績	2.4	2.1			
				目標					
				実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人工	3		3		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	21,981		21,861		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	21,981		21,861		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	給水装置工事検査事務	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年度市町合併以来、継続して水道水の安定供給を確保するため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	人口は減少傾向にあるが、世帯数は増加傾向にあるため、給水装置工事申込件数は横ばい傾向にある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）	
		＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。				
	中		○			
	小					
大		中	小	成果向上余地		

事務事業マネジメントシート

事務事業名		給水装置工事業業者指定事務					本年度担当課		水道課			
							前年度担当課		水道課			
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業		
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業		
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	義務的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	直営	
	水道	XX	XX	XX	給水装置工事業業者指定事務					事業分類	証明書交付等事務	
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成17年度 ～		市長公約	該当なし		
根拠法令・条例等		水道法									総合戦略	該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）									
目的	事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）				
	給水装置工事業者からの佐野市指定給水装置工事業者登録申請に基づき、書類審査、事業所の調査のうえ指定する。				給水装置工事業者を指定した件数：7件				
	活動指標				単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）
	給水装置工事業者指定件数				件	9	7	5	5
目的	②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）				対象指標				
	給水装置工事業者の指定を受けようとする者				単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）
	給水装置工事業者指定件数				件	9	7	5	5
	③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）				成果指標				
	給水装置工事を法令等の基準に従って適正に施工することが出来ると認められた事業者を指定する。				単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
目的	指定件数/申請件数				%	目標	100	100	100
						実績	100	100	
						目標			
						実績			
目的	④結果（どのような結果に結びつきますか？）				上位成果指標				
	適切に維持管理されている。				単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	老朽管更新延長(単年度)				km	目標		2.3	2.7
						実績	2.4	2.1	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人件費計(B)	千円	14,654	千円	14,574	千円	0	千円	0	千円	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	14,654		14,574		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	給水装置工事事業者指定事務	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年度市町合併以来、継続して水道水の安定供給を確保するため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	規制緩和以降、市外からの指定申請が増加している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）		
		＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。					
	中		○				
		小					
			大	中			小
		成果向上余地					

事務事業マネジメントシート

事務事業名		給水装置工事受付・審査事務					本年度担当課		水道課			
							前年度担当課		水道課			
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業		
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業		
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事业		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	直営	
	水道	XX	XX	XX	給水装置工事受付・審査事務					事業分類	許認可・審査事務	
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成17年度 ～		市長公約	該当なし		
根拠法令・条例等		水道法									総合戦略	該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

目的	事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）	令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
	・給水装置工事事業者を通して申請があった工事の内容を確認し受け付ける。 ・給水装置工事事業者を通して申請があった給水装置の構造及び材質が、基準に適合しているかどうかを審査する。	給水装置工事受付件数：1,102件 給水装置工事審査件数：1,096件						
		活動指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
		給水装置工事受付件数	件	1,152	1,102	1,100	1,100	1,100
		給水装置工事審査件数	件	1,166	1,096	1,100	1,100	1,100

②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）

目的	給水装置工事事業者の指定を受けようとする者	対象指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
		給水装置工事事業者指定件数	件	9	7	5	5	5

③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）

目的	給水装置工事を法令等の基準に従って適正に施工することが出来るか申請書を受け付けて審査し指導するとことで、給水装置工事事業者としての質の向上につなげる。	成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		給水装置工事受付件数	件	目標			1,100	1,100	1,100
				実績	1,152	1,102			
		給水装置工事審査件数	件	目標			1,100	1,100	1,100
実績	1,166			1,096					

④結果（どのような結果に結びつきますか？）

目的	適切に維持管理されている。	上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		老朽管更新延長（単年度）	km	目標			2.3	2.7	3
				実績	2.4	2.1			
				目標					
		実績							

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	人工	3		3		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	21,981		21,861		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	21,981		21,861		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	給水装置工事受付・審査事務	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年度市町合併以来、継続して水道水の安定供給を確保するため。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	人口は減少傾向にあるが、世帯数は増加傾向にあるため、給水装置工事申込件数は横ばい傾向にある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果				（２）今後の事務事業の方向性		（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。		
	中		○				
	小						
	成果向上余地						

事務事業マネジメントシート

事務事業名		浄水場等運転管理業務委託事務					本年度担当課	水道課				
							前年度担当課	水道計画係				
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業		
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業		
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					実施方法	一部委託	
	水道	XX	XX	XX	浄水場等運転管理業務委託事務					事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成22年度 ～		市長公約	該当なし		
総合戦略											総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等												

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方） 令和4年から5年間、包括的業務委託（施設運転管理、点検、水質管理、環境整備、物品の調達）により水道施設の運転管理を行う。	令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
	4月から3月	運転・点検・水質管理、環境整備、物品調達業務					
	4月から3月	月間報告会の開催					
	4月から3月	軽微な修繕業務の内容確認、指導、監督					
	活動指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）
	運転管理業務	月	12	12	12	12	12
月間報告会	回	12	12	12	12	12	

②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）

浄水場等運転管理業務が適正に行われることにより、水道施設の維持管理を確実に実施する。	対象指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）
	業務対象施設	箇所	113	110	110	110	110

③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）

浄水場等の運転管理が適正に行われることにより、水道施設の維持管理が確実に行われる。	成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	不適正な管理が原因の機器の故障	件	目標			0	0	0
			実績	0	0			
			目標					
			実績					

④結果（どのような結果に結びつけますか？）

安全で安心な水道水が供給される。	上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	紫外線照射装置等整備率（済箇所数/必要箇所）	%	目標	33.3	41.7	50	58.3	66.7
			実績	33.3	41.7			
			目標					
			実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	R 3 年度（実績）		R 4 年度（実績）		R 5 年度（目標）		R 6 年度（目標）		R 7 年度（目標）	
	国庫支出金		千円	0		0		0		0		0	
	県支出金		千円	0		0		0		0		0	
	地方債		千円	0		0		0		0		0	
	その他		千円	0		0		0		0		0	
	一般財源		千円	147,400		0		0		0		0	
	事業費計(A)		千円	147,400		0		0		0		0	
	事業費の内訳		千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	3		3		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	21,981		21,861		0		0		0		
トータルコスト(A)+(B)		千円	169,381		21,861		0		0		0		

B表（事後評価シート）

事務事業名	浄水場等運転管理業務委託事務	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道計画係

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	水道の経験、技術を持った職員が退職、人事異動で水道の現場を離れ、技術力の低下が懸念された。適性な管理を行うため、民間の技術力を導入し平成22年度から事業を開始、令和4年度から5年間の業務委託を継続している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成28年度から群馬県太田市、館林市、みどり市ほか5町が参加した群馬県東部水道企業団の事業が開始された。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	本事業についての要望はなかったが、開始時期について質問があった。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性	（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）		
		＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。					
	中		○				
		小					
			大	中			小
		成果向上余地					

事務事業マネジメントシート

事務事業名		配水管維持管理事業（北部営業所）					本年度担当課		水道課		
							前年度担当課		水道課		
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					事業 区分	新規・継続	継続事業	
	政 策	02	住みやすい快適なまちづくり						実施計画・一般	一般事業	
	施 策	02	安全で安定した水の供給と生活排水の適正処理						市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	安全で安心な水道水の安定供給						任意・義務	任意の事業	
	予 算	会計	款	項	目	予算事業名			実施方法	直営	
科目	水道	XX	XX	XX	配水管維持管理事業（北部営業所）					事業分類	施設維持管理事業
事業計画		単年度繰返し			事業期間		平成17年度 ～		市長公約	該当なし	
									総合戦略	該当なし	
根拠法令・条例等		水道法									

1. 事務事業の現状把握【D0】
(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）

事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）	令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
	北部営業所管内における、 ①配水区域末端の水質検査 ②配水管や一次側給水管の漏水点検及び修繕等を行った。						
	活動指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
	漏水修理件数（配・給水管）	件	138	157	150	150	150

②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）

北部営業所管内の、各浄水場及び配水場、並びに、配水管及び一次側給水管。	対象指標	単位	R3年度 （実績）	R4年度 （実績）	R5年度 （目標）	R6年度 （目標）	R7年度 （目標）
	配水管の延長	Km	311.1	311.9	312	312	312

③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）

各家庭に安全な水を確実に届ける。	成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	漏水が原因で給水管に影響があった箇所	箇所	目標	0	0			
			実績	1	2			
	濁りの苦情件数	件	目標	0	0			
			実績	3	2			

④結果（どのような結果に結びつきますか？）

安全で安心な水道水が提供される。	上位成果指標	単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	老朽管更新延長（単年度）	km	目標	2	3.2	2.9	2.7	3
			実績	2.4	2.1			
			目標					
			実績					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	R 3 年 度（実績）		R 4 年 度（実績）		R 5 年 度（目標）		R 6 年 度（目標）		R 7 年 度（目標）	
	国庫支出金		千円	0		0		0		0		0	
	県支出金		千円	0		0		0		0		0	
	地方債		千円	0		0		0		0		0	
	その他		千円	0		0		0		0		0	
	一般財源		千円	0		0		0		0		0	
	事業費計 (A)		千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳		千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
人件費	職員従事工数	人工	0		2		0		0		0		
	人件費計 (B)	千円	0		14, 574		0		0		0		
	トータルコスト (A) + (B)		千円	0		14, 574		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	配水管維持管理事業（北部営業所）	本年度担当課	水道課
		前年度担当課	水道課

（３）事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成17年度の市町合併以降、継続して行っている事業であり、水道施設の維持管理業務を民間委託した平成25年4月以降は、葛生営業所と田沼営業所を統合し北部営業所として実施している。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高度成長期に布設された配水管が更新時期を迎えているが、人口減少に伴う水需要の減少等により収益も減少しており、経営については厳しい状況に直面している。その為、事業費の抑制を図る必要があるが、維持管理及び修繕費用の増大が課題となっている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	水の安定供給と安全性（水質）についての要望が高まっている。

（４）前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
広範囲を最低限の職員数で賄っており、業務改善等も十分に行っていることから、今以上の成果向上は大変困難である。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

（１）事務事業の評価結果					（２）今後の事務事業の方向性		（３）改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大				現状維持（従来通り実施）			
					＊評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中		○					
	小							
		大	中	小	成果向上余地			